



校長室だより

令和5年度

7月14日

NO. 17

危機から自分を守る力をつけられるように

「暑いですね」が挨拶となるようになりました。「昔はこんなに暑かったっけ」そんな会話も、よくします。調べてみると、昔もこのくらいの暑さ（気温）はありましたが、大きく違うのは、35度以上の「猛暑日」が100年前、30年前よりも確実に増加した点でした。暑い日が多くなったということは確かなようです。世界的にも、この100年で年平均気温は0.7度ほど、日本でも1.3度ほど高くなったと言われます。着実に温暖化は進んでいるということでしょう。

それに伴い、熱中症も増加しています。（※別紙で愛知県知事のメッセージをご覧ください）学校でも、休み時間や部活など、屋外での活動時にはWBGT（暑さ指数）を測って、子供に知らせています。暑さ指数が5段階レベルで、「4 嚴重警戒」や「5 運動中止」の時には、運動場で遊ぶのを中止して、体育館で遊ぶなど対策を取っています。昇降口のミスト、教室のエアコンなど、適切な環境の整備に努めています。私も休日、外での活動後、心臓がドキドキすることがありました。熱中症は、いつなるのかわかりません。「自分の命は自分で守る」は災害の基本ですが、熱中症予防についても同じです。こまめに水分補給したり、タオル等で冷やしたり、お茶を多めに持ってきたり、塩分タブレットをとったりするなど、自分自身で予防することが大事です。



7月6日には、岡崎市の生活安心係の方や警察署の生活安全課の方に来ていただき、体験型防犯教室が行われました。防犯教室の前に行われた避難訓練では、1，2年生の教室に不審者が侵入したという設定で、（実際に生活安心係の方に不審者をやっていただき）避難の仕方を学びました。もしも突然、このようなことが起こったら、きっと子供たちはパニックになってしまうのではないかと心配しましたが、今回の訓練では1，2年生も落ち着いて、速やかに避難することができました。危険に対し、自分たちで考えてさっと動くことができ、とても立派でした。その後の防犯教室でも、日頃、日常の中で不審者にあつた時の対処について、実際に大声を出したり、逃げたりする体験を通して、学ぶことができました。



熱中症や不審者だけでなく、こうした危機は年々増えているように思います。交通事故や水難事故は昔からありますが、これまでのコロナやインフルエンザ等の感染症、最近ではゲームやSNSに関わるトラブルもあります。毒のある虫や動物による被害も考えられます。6月の大雨や土砂崩れ等の被害は記憶に新しいところですし、東南海大地震もいつ来てもおかしくない状態だと言われます。Jアラートや振り込め詐欺も、日常的に関係する時代も来るかもしれません。学校は「生きる力」を学ぶところですが、こうした危機への対応は、まさに子供にとって、これからを「生きていく力」になります。そのためには、そうした危機を関係ないと片付けずに、「もし自分に起こったら」と、自分事として考えることが大切だと考えます。